

■全体概要

2019年10月28日(月)～30日(水)の3日間、一般財団法人日本環境衛生センター主催による「第63回生活と環境全国大会」を熊本県熊本市のオープンして間もない「熊本城ホール」において、延べ2,380名の方々にご参加をいただき開催しました。

■大会式典

10月29日(火)の午後から同ホール3階大会議室A3・A4において開催しました。主催者として、一般財団法人日本環境衛生センター 南川秀樹 理事長が開会を宣言し、奥村明雄 大会長が大会長挨拶を行いました。続いて、ご来賓として、環境省から岡本光之 九州地方環境事務所長、厚生労働省から大塚憲孝 生活衛生課課長補佐、熊本県から田嶋徹 副知事、熊本市から多野春光 副市長にご祝辞を頂きました。

その後、環境大臣表彰、厚生労働省医薬・生活衛生局長感謝状、第63回生活と環境全国大会長感謝状の贈呈を行いました。受賞者謝辞は、熊本県の緒方和博氏が代表して述べ、最後に次期開催地として石川県の道下博之 廃棄物対策課長が挨拶をされました。各受賞者数は次の通りです。

<環境大臣表彰>

- 令和元年度一般廃棄物関係事業功労者 21名
- 令和元年度生活環境改善功労者 31名
- 令和元年度生活環境改善模範地区 7地区
- 令和元年度廃棄物・浄化槽研究開発功労者 10名

<厚生労働省医薬・生活衛生局長感謝状>

- 令和元年度環境衛生監視業務功労者 57名

<第63回生活と環境全国大会長感謝状>

- 令和元年度生活環境改善功労者 76名



大会式典

■大会行事

式典の後には、東京都市大学 特別教授の涌井史郎(雅之)氏による特別講演「地域循環共生圏の創造—社会的大変革を迫られる持続的未來のための戦略—」を行い、360名が参加しました。さらに、特別講演の後には、特別企画リレー講演「豊かな水を未来につなぐ—くまもとや阿蘇の魅力ある地域資源を活かして—」として、環境省九州地方環境事務所長の岡本光之氏、阿蘇草原再生協議会会長の高橋佳孝氏、熊本県地下水保全アドバイザーの田中伸廣氏、熊本市水保全課長の永田努氏、水と緑ワーキンググループ代表の大住和佑氏にご講演をいただき、250名が参加しました。



環境省九州地方環境事務所長 岡本光之氏



水と緑ワーキンググループ代表 大住和佑氏

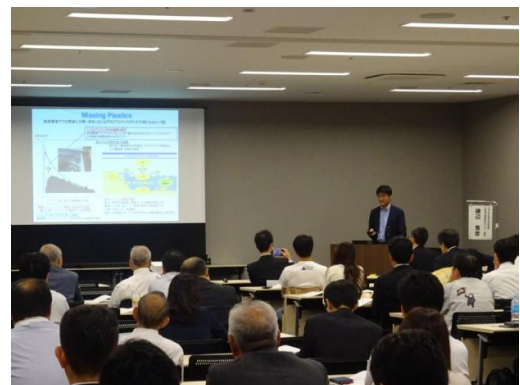
同日には、全国環境衛生職員団体協議会（全環職）による環境衛生監視業務に関する「事例研究発表会」が行われ、150名が参加しました。発表会では全国から11題の事例発表が行われました。

翌10月30日（水）には、3つの公開講座を開催しました。一般社団法人廃棄物処理施設技術管理協会との共催企画である公開講座「地域における資源循環と新たな付加価値の創出」及びランチセミナーには150名が、公開講座「海洋プラスチック問題の現状と取り組み」には80名が、公開講座「大規模災害発生時の衛生環境の確保」及びシンポジウム「大規模災害時の環境衛生監視員の役割と活動」には150名が参加しました。

また、同ホール3階大会議室A2及びホワイエでは、29日及び30日の両日、「生活と環境展示会」を開催し、プラントメーカーや関係機関、市民団体等18団体による活動報告や製品の紹介等が行われ、500名が来場しました。なお、プラスチックスマート・フォーラムをパネルで紹介したり、「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」の成果をレガシーとして活用する「アフターメダルプロジェクト」の一環で、使用済み携帯電話の回収を行いました。



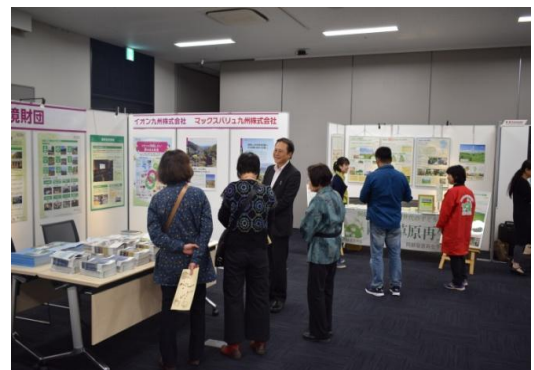
公開講座「地域における資源循環と新たな付加価値の創出」



公開講座「海洋プラスチック問題の現状と取り組み」



公開講座 講演「大規模災害発生時の衛生環境の確保」
シンポジウム「大規模災害時の環境衛生監視員の役割と活動」



生活と環境展示会

■関連行事/併催行事

10月28日（月）の午前には、全国環境衛生・廃棄物関係課長会による公開講演会が開催され、57名が参加しました。同日には、全国環境衛生・廃棄物関係課長会の部会及び総会が開催されました。

10月29日（火）の午後には、全環職の総会が開催され、総会会場では令和元年度会長感謝状が72名に、令和元年度優秀論文賞が12名に贈られた。また、同日には、日本環境斎苑協会による「第33回全国火葬情報交換会」が開催され、講演及び見学会に延べ91名が参加しました。

■次回開催について

開催予定地及び会場：石川県金沢市・金沢市文化ホール（JR金沢駅からバスにて約15分）

開催予定日：2020年10月21日（水）～10月23日（金）